

結婚が男性の労働時間に与える影響

要旨

本稿では、結婚によって男性労働者の労働時間がどのように変化するかについて、慶應義塾大学が実施している「慶應義塾家計パネル調査」を用いて、長期的分析をおこなった。

推定結果から、個人の観察できない属性の効果をコントロールしても、結婚は妻が就業していない場合には、男性労働者の労働時間に対して正の効果を与えることが確認されたが、妻が就業している場合、結婚によって男性労働者の労働時間は増加しないことが確認された。また、学歴差の大きい夫婦の方が結婚によって男性の労働時間が大きく増加する傾向にあることが確認された。さらに、長期的な分析では、結婚による男性労働者の労働時間への影響は結婚直後の2-3年が最も大きく、その後は影響が徐々に小さくなっていくことが確認された。これは、結婚後に望ましい就業形態への移行が速やかに行われていないことを反映しているかもしれない。